
戦場にて

神崎亜美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦場にて

【Nコード】

N3376U

【作者名】

神崎亜美

【あらすじ】

pixivのお友達に捧げ物した奴をちよろつと変えただけです。日本史のテキストに出てきたアヘン戦争で妄想しただけです！！
過度な期待は身を滅ぼすよ、お嬢さん
眉毛が鬼畜っぽいのは仕様です。ウチの眉毛はずーっとこんなんです。
そしてーにつて難しい＼(＾O＾)ノ

(前書き)

歴史が語らざる史実

それは彼らが人でないからなのか

或いは

余りにも早く、勝敗を決したからか……

東洋の頂点に君臨する大国と強大な力を持つ島国が繰り広げる、戦線。

その近海に浮かぶ船の上で、二人の男が剣を交えていた。

黒髪を束ねた男の青竜刀が、海賊に似た出で立ちの男の放った銃弾を弾く。

黒髪男はそこで地を蹴り、海賊男との距離を一気に詰める。

「あいやあああああ！！」

そう叫びながら得物を振り下ろす。しかし海賊男は間一髪で横に跳び、同時に銃声を響かせた。

「甘いある！！」

彼は勢いのまま前に跳ぶ。そこから方向を変え、再び刃が届く範囲まで間合いを詰めようと

「……はっ」

殺意をもって向かってくる相手に、海賊男は嘲りを混ぜて笑った。

甘いのはお前だ

そう心中で言っ、海賊男はタイミングを見計らい、銃を左手に持ち替え

「……！！」

こちらの意図に気づいたか、向こうが表情を固くする。それでも、勢いは止まってくれず

キーン！

抜かれた剣は青竜刀とぶつかり、甲高い音を立てる。

その事実に対応する速度が、勝負を分けた。

もう片方の手で放たれた銃弾は彼の左肩に穴を穿ち、咄嗟にそこを押さえようとする隙について、腹に蹴りを入れた。

「っ……！！」

細い足から繰り出された衝撃に、男の体が蹴り飛ばされる。マス

トに叩きつけられて足元をふらつかせる彼の首に、刀身があてがわれた。

「くくつ……東洋の王がいい姿じゃねえか。所詮は井の中の蛙だな」
「……………」

勝者の笑みを浮かべる男の緑眼を、金の瞳が睨みつける。剣を少しでも離せばこちらが噛みつかれる。それを直感させた。ソクソクとした快感が駆け抜ける。彼は左手を僅かに動かした。刃が首に食い込むように。

彼は一言吐き捨てた。

「この……アヘン野郎っ」

「ははっ、違いねえや。なら」

彼は右手を撃たれたところに伸ばし、ぐっと力を込めた。

「っ……ああっ」

苦しみに歪む顔を見て愉悦に浸りながら、彼は耳元で囁いた。

「楽しいだろうなあ。その大っ嫌いなアヘン野郎に薬漬けにされる気分はよお……………」

(後書き)

呼んでいただきありがとうございます！

神崎は今年人生の岐路らしきモノに差し掛かる予定なので、次の投稿がいつになるかは定かではありません。

ですがここまでお付き合いいただいた心優しい方がいることを忘れず、書き続けていこうと思います。

ありがとうございましたm()m

D a n k e s c h o n n !

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3376u/>

戦場にて

2011年10月8日12時21分発行